

一般社団法人

千葉県言語聴覚士会ニュース

NO. 43 2013年12



目 次

| | | | |
|--------|----------|-------------|----------|
| 会長から | 1 | ひとくちコラム | 12 |
| 学術局から | 3 | 各委員会・作業部会から | 13 |
| 施設紹介 | 8 | 事務局から | 16 |
| 臨床こぼれ話 | 9 | 理事会等報告 | 17 |
| 匠の技 | 10 | | |

◇ 会長から ◇

＊＊＊ 千葉県言語聴覚の日 ＊＊＊

吃音サイエンスカフェ 「どもるって、どんなこと？」

会長 吉田 浩滋

■吃音サイエンスカフェがオープン

平成25年9月29日（日）、JR 千葉駅近くにある百貨店「そごう千葉店」の2階「はなの広場」で千葉県言語聴覚の日を開催しました。今回初の試みとして、専門家と一般の人がカフェなどの比較的小規模な場所でお茶を飲みながら話し合う「サイエンスカフェ」という形式で、「吃音」について理解を深めました。

■まずはクイズに挑戦

当日は、言語聴覚士と吃音にまつわるクイズコーナーから始まりました。「現在、言語聴覚士の数は、東京ディズニーランドの最寄駅・舞浜の一日の乗降客の数よりも多い」、「言語聴覚士の養成校は千葉県にいる、ゆるキャラの数よりは多い」というものから、「現在、日本の吃音者は千葉市の人口よりは少ない」「吃音はまねるだけでは、発症しない」という質問に約150名の来店者が頭を捻りました。



■親が、学校が、社会が変わることが必要

クイズの後は、九州からおこし頂いた菊池良和先生にご講話をいただきました。菊池先生は耳鼻科医として休日の救急診療も行う多用さにも関わらず、「日本吃音・流暢性障害学会」の立ち上げにも奮闘される、「吃音」の当事者です。

ご講話では、吃音で悩む小学生の作文を読みながら、本人がかわる事よりは、親、学校、社会がかわる事の方が重要で、子どもから話す気持ちや楽しさを奪わないようにする事がもっとも大切だと力説されました。

そして次は当事者、保護者、言語聴覚士が、それぞれの立場から吃音について語りました。ある吃音当事者の青年は、自らの就職活動を振り返り、途中から履歴書に吃音があることを記したり、面接担当者に吃音があることをカミングアウトしたりすることで、その後の面接が楽になり、採用に至った事を語ってくれました。またある保護者からは言友会のチラシをもらったことがきっかけで相談を受け、お子さんと仲間につながりができた事、そのお子さんも現在は中学生となり、特別支援学級の先生やソーシャルワーカーを目指し頑張っている事をお話し下さいました。更に、ある言語聴覚士からは乳幼児健診の中でのエピソードを語り、独りで考えこむのではなく、言語聴覚士や言葉の教室の先生に相談して欲しい事を訴えました。

■会場とのやりとりでは…

その後、菊池先生がそれぞれの発言者や、更にカフェの来客者から質問を受け、それに答えながら「吃音」について理解を深めるコーナーになりました。

ある吃音当事者からは、今後、吃音の研究を行いたいが、現在の吃音研究の状況や、どうすれば研究を行うことができるのか、といったアカデミックな質問を頂きました。そして菊池先生からは、研究には被験者を集める事が大切である事、研究を進めるにあたっては当事者団体に入ることが重要である事をお答え頂きました。また国際結婚をされた方からは、東日本大震災後の原発事故で一時国外の実家に避難し、半年後に日本に戻って来たが、その後、子どもが吃音になってしまった事や、日本語を使わない場所に避難した事が原因か?といった質問等が挙りました。それに対し、菊池先生は、海外への避難と吃音がたまたま重なっただけで、避難そのものが原因ではない事や、これまでの環境原因説を否定しながら、わかりやすくお答え下さいました。

また私たち言語聴覚士には、「このような吃音のイベントは初めてか?」、といった質問を頂きました。これに対しては、本会10年の歴史のなかで、吃音をテーマとしたイベントを行ったのは今回が初めてであり、今後も継続して行いたいとお答えしました。

そして終始和やかな雰囲気の中、吃音サイエンスカフェの閉店となりました。

※ 当日の様子は YouTube でご覧になります。「千葉県言語聴覚の日」で検索してください。



◇ 学術局から ◇

学術局 酒井 譲、木村 佐知子

1. 平成25年度第3回研修会のお知らせ

「口腔・摂食嚥下障害」をテーマに症例検討会を開催します。講師に日本歯科大学附属病院の西脇恵子先生をお招きし、2症例へのご助言と臨床上の評価およびリハビリプログラム等のポイントについてお話をいただきます。症例検討会後には、皆様の日々の臨床上の疑問点などを相談し合い、よりよい方法を模索するための情報交換会も行います。会員の皆様はもちろん、会員外の方もお誘い合わせの上お申込下さい。

* 日時：平成26年1月19日（日） 13：00～16：40

* 会場：順天堂大学医学部附属浦安病院 外来棟3階講堂

* 内容：

I. 症例検討会 [13：00～16：00]

①「複合的訓練が奏功し音声表出及び経口摂取が可能となった1症例」

発表者：平和台病院 言語聴覚士 小田 薫 先生

②「球麻痺症状を呈した封入体筋炎の1症例」

発表者：順天堂大学医学部附属浦安病院 言語聴覚士 早坂 さち 先生

「口腔内の見方～そのポイントとリハビリテーション～」

助言・講演：日本歯科大学附属病院 口腔リハビリテーション科医長

言語聴覚士 西脇 恵子 先生

II. 情報交換会 [16：10～16：40]

* 申し込み方法：詳しくは同封の申込書をご覧下さい。

2. 第2回研修会報告

平成25年9月8日（日）に東京女子医大八千代医療センターで第2回研修会を開催しました。今回は介護保険委員会、小児言語障害委員会の2委員会が企画・運営し、53名（会員44名、会員外9名）の方が参加されました。内容は、講演やグループワークなど、様々な形式で実施しました。各委員会から研修会の概要と、アンケート結果の一部をご紹介します。

研修会の概要

講演①「青年海外協力隊員の活動から学んだこと～言語聴覚士と国際協力～」

講師：千葉西総合病院 大塚 天貴 先生

概要：国際協力と青年海外協力隊の概要や、大塚先生の活動報告、更には国際協力における今後の課題と展望についてご講演頂きました。青年海外協力隊におけるSTは、同じリハビリテーション職であるPTやOTと比べるとその知名度も実績も乏しい職種である事に加え、ことばの壁があるため、国際協力分野での活動を疑問視する声も聞かれています。しかし開発途上国では、構音障害と失語症の区別がつかない、嚥下障害患者の適切な食物形態がわからない、発達の見方がわからない

い、障害者・児は何もできないとみなされ、教育やリハビリテーションの機会が与えられない等の現状が見られています。そのような状況の中で、我々日本人にできる支援は多くあるにも関わらず、S Tの派遣実績は障害者支援分野の2%に留まり、国際協力分野におけるS Tの認知度は低いと言わざるを得ない現状である事をお話をいただきました。国際協力へ参加することは、①国内外へ関心を広げ、グローバルな視点を身に付けられること、②異文化生活の中で価値観の多様性に触れ、柔軟性を身につけること、③今後の人生の財産となる人との出会いが得られること、そして④人間として成長させてくれるばかりでなく、言語が通じないことの苦労を実際に体験し、言語・コミュニケーションの大切さを再認識出来る事をご講義いただきました。今後多くのS Tが国際的に活躍していくことが望まれる、有意義な研修会となりました。

(酒井 譲)

講演②「地域における言語聴覚療法～地域で働く言語聴覚士に必要な知識～」

講師：初台リハビリテーション病院 森田 秋子 先生

概要：はじめに、地域リハビリテーションの理念・目的・役割・言語聴覚療法の特徴について述べられ、病院と在宅におけるリハビリテーションの違いを示されました。その中で大きな違いの一つとして、サービス提供者の専門職は、病院では医療職が中心であるのに対し、地域では医療・介護・福祉にまたがる他事業所・多職種と共に支援チームであったことであり、支援の期間は、地域では終末期までを見据えた、継続的かつ長期的な視野に立つ点である事が述べされました。

次に地域における言語聴覚士が知っているべき知識として、評価とアプローチのポイントを「認知症」「失語症」「構音障害」「高次脳機能障害」「難聴」「摂食嚥下障害」と障害別にご説明いただきました。特に「認知機能評価」は、全ての事例に必要であることを強調されました。意識・感情・注意・記憶・判断・病識の6つの視点について、日常生活の観察から点数化できる、森田秋子先生作成の「総合的認知能力の段階評価」については、演習も行われました。「コミュニケーション評価」では、コミュニケーション活動を、機能面以外に「役割」や「社会参加」、また「コミュニケーションパートナー」についても日常生活の中で評価する方法をご紹介いただきました。また実践的評価法の他にも、基本ADLと、それを下支えする認知機能の重要性、地域での多職種との情報交換・情報共有の方法論など多くを学ぶことができました。

講演後の質疑応答では、摂食嚥下は歯科医師や歯科衛生士も専門領域としている中で、S Tの役割についての質問がありました。先生からは「地域領域S Tは少なく、歯科医師や歯科衛生士と連携をとり、先行期や食形態について意見が述べられることも大切です」とのお答えがありました。病院退院後の長い地域生活に、言語聴覚士としてどう関わっていくのか、様々な側面からご教授いただき、充実した研修会となりました。

(松本 真紀)

グループワーク 「小児言語障害に関する評価について」

概要：小児言語障害委員会は9月8日、「小児言語障害に関する評価について」をテーマにグループワークを行いました。本会員S Tを中心に、新人S Tから経験豊富なS Tまで県全域からの参加がありました。参加者は2グループに分かれ、グループディスカッションを行いました。各グループのチューター

を当委員会担当理事の渡邊裕貴先生と千葉リハビリテーションセンターの廣瀬綾奈先生に担当していました。事例は君津中央病院の金子義信先生から「認知面に比べ表出面の遅れが著しい症例」の報告がありました。報告された事例の評価と目標・訓練プログラムについて、それぞれ時間を設定して議論と発表、質疑応答が行われました。

グループワークの内容は、新版K式発達検査を中心に解釈を行い、臨床場面のビデオの視聴に加え、さらに必要な情報収集を行いました。そこからの評価として言語、認知、対人・行動とコミュニケーションの項目毎に内容をまとめ、目標や具体的な訓練プログラムについて立案したものをグループごとに発表しました。その後、事例報告者の金子先生より P V T – R 、 L C スケールでの評価を含めた経過の報告も行われました。ひとつの事例について時間をかけて段階的に評価から訓練まで検討できただけで、参加者一人一人の意見を反映する事が出来ました。更にさまざまな参加者の経験と条件を合わせた具体的な支援をするための話し合いができ、より実践的で臨床に役立つ内容となりました。

参加者のアンケートには、評価・訓練の視点が拡がったといった多くの感想を頂き、今回のグループワークが、他施設の仕事内容を理解し、交流を図る機会となりました。定期的な開催についての希望や、具体的に吃音や聴覚障害児、小児の高次脳機能障害へのアプローチについて学びたいとのご意見もいただきました。今後の委員会活動で検討し、来年度の活動へとつなげていきたいと思います。

(藤田 誠)

アンケート結果

(講演①参加者)

①研修会に参加して（回収：28名）

とても良かった：22名、普通：3名、未記入：3名

具体的に：

- ・不慣れな所で、色々と苦労をされながら活動をされた姿にとても感動しました。また何もない所から何かを作り上げていくやりがいやパワーをいただけたように思います。
- ・今まで青年海外協力隊の名前を聞いたことがあっても、自分とはあまり関わりのないものと考えていました。しかし今回の講演を伺って、将来私にもできることがあるかもしれませんと感じられました。ぜひ可能なら私もやってみたいと思いました。
- ・青年海外協力隊のこと、映像もありとてもわかりやすかったです。S Tとして支援する為には文化を理解し、環境を整えていくことの大切さがわかりました。為になる講演ありがとうございました。

(講演②参加者)

①研修会に参加して（回収：27名）

とても良かった：24名、普通：3名

具体的に：

- ・S Tの仕事を続けていくにあたり、小児分野だけでなく成人分野の臨床ができるようにと考えていました。今後訪問リハビリがさらに必要になっていく事を伺って、方向性を考えるきっかけとなりました。

- ・「その人らしく」の言葉が強く印象に残りました。リハビリとして具体的に患者、利用者が「どう生きたいのか」を深く考えていきたいと思いました。
- ・認知症の評価、エピソードを交えてわかりやすくできる形式は、明日から役立ちます。「認知症のリハビリにSTが最適」の言葉、とても勇気づけられました。

(グループワーク参加者)

①研修会に参加して（回収：9名）

とても良かった：9名

具体的に：

- ・金子先生の発表内容がとても具体的でわかりやすかった。
- ・他のSTの評価や見方を具体的に聞くことができてよかったです。
- ・グループで討論することで評価・分析の視点を学ぶことができた。
- ・他のSTがどんな訓練をしているかを具体的に知ることができてよかったです。
- ・他施設での取り組みやどんなことをしているのか視野が広がった。
- ・少人数だったので休み時間も気軽に意見交換ができるよかったです。

②今後の研修会や本会の活動について、ご意見などがありましたらお書きください。

（以下の項目つき、回答を集計しました。）

形式：講演 24名、症例発表 15名、シンポジウム 4名、その他 3名

内容：失語症 13名、高次脳機能障害 14名、摂食・嚥下障害 13名、聴覚障害 4名、

音声・構音障害 12名、吃音 2名、言語発達障害 12名、その他 2名

具体的に：

- ・障害に関する内容、職種（ST）として必要な内容（接遇マナー、ことば使い、福祉制度、法制度面、ヒヤリハット例と対応など）。
- ・高次脳機能障害者の運転、社会復帰について。また重度嚥下障害者の長期的な経過、家族、本人との関わり方についてなど。
- ・言語表出が難しい子どもへの言語指導について。また広汎性発達障害の子どものソーシャルスキルトレーニングに関する話など。

3. 学術局より

[研修会を終えて]

今回の開催にあたり、各委員会は打ち合わせを重ねて参りました。委員会は若い方からベテランまで幅広く在籍しており、医療や福祉など、様々な職場で働く方が集まっています。それらの委員に共通することは、日々の臨床の問題意識を多くのSTと共に感じ合い、新たに得た知見を目の前のケースに還元したいという熱意だと思います。今回は、その熱意が研修会という形になり、学び合う機会を提供できることを嬉しく思っております。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。皆様の臨床の一助になれますよう願っております。

[研修会の症例発表者募集]

研修会での症例発表者を募集します。日頃の臨床で悩んでいる症例などありましたら、是非ご検討ください。皆様の積極的な提案をお待ちしています。本会ホームページにお問い合わせください。

4. 「地域の勉強会」での症例検討会に参加しませんか？

会員の皆様のご協力により、各地域で勉強会が開催されています。ホームページの「小児多職種合同勉強会」、「地域勉強会」をご参照の上ご参加ください。





施設紹介



船橋二和病院 リハビリテーション科 ST 鈴木 直哉

当院は船橋市北部に位置し、24時間安心してかかる病院として1981年5月に開設されました。「予防からリハビリまで、赤ちゃんからお年寄りまで、どのような患者さまも断らない」を合い言葉に、保健予防、慢性疾患管理、救急医療、在宅介護事業まで幅広い医療を行っています。全299床のうち回復期病棟が31床、療養型病棟が39床です。現在、リハビリテーション科のスタッフはPT21名、OT8名、ST3名で、急性期から回復期、維持期、外来まで幅広く携わっております。

ST部門は嚥下障害、失語症、高次脳機能障害、構音障害のほか、小児のリハビリを行なっています。嚥下障害の評価・訓練へのニーズは高く、VFやVEも積極的に行われていて、業務の半分を占めます。また、NSTや認知症ケアのチームにも参加しており、院内での学習会を精力的に行っています。

当院では8つの患者会が活動しており年間を通して様々な行事があります。STは失語症の方を中心とした「二和ことばの会」をサポートしており、「春のつどい」や「冬のつどい」では皆で楽しくゲームを行います。また、「歌の会」を毎月開いて、患者さまに唱歌などの懐かしの歌を唄っていただいています。「歌の会」は毎回好評で、大勢で歌う事により、普段はあまり聞かれない素敵な声が聴こえてきます。

〒274-8506 船橋市二和東5-1-1 TEL: 047-448-7111 (代)

松戸神経内科 通所リハ「ふれあい広場」「松戸神経内科訪問看護ステーション」 ST 木村 佐知子

当院は東葛地域に位置し「一流の医療を街の中へ」「患者さんの訴えは常に正しい」をモットーにした神経内科のクリニックです。MRI、脳波、頸動脈エコー等の診断設備を整え、充実した医療を提供しています。PT、OT、STが在籍し、Ns、ケアマネ、介護福祉士、相談員、事務等幅広い職種が揃って協働し、他院・他事業所との連携にも力を入れています。リハビリテーションは生活期を主体とし、併設の通所リハ「ふれあい広場」と「松戸神経内科訪問看護ステーション」で実施しています。対象は、神経難病の方はもちろん脳血管疾患、生活不活発病等の様々な疾患の方のコミュニケーション障害・摂食嚥下障害等です。

STの特徴として「ふれあい広場」では、月曜日に失語症デイを行っています。その他一週間の中で、個別リハの他に失語・構音等の症状や重症度に合わせた16グループのリハを行っています。またご利用の中で、ピアカウンセリングの場、自分が安心して存在できる場、の提供を心がけています。

「訪問看護」では、ご自宅ならではの環境を活かし、実生活での嚥下評価・リハ、社会での交流が不安な方への言語リハ等を行っています。またご家族への支援にも重点をおき、無理のない食事環境の助言や、ご家族が最も良きコミュニケーションパートナーとなるよう共に考えながらアプローチを行っています。

誰にとっても当たり前であるはずの「自宅で生活する」ということを実現し、それを安心して継続する事が出来るように日々奮闘しています。病気によって受けた心理的・身体的環境の変化を、ご本人・ご家族ともに少しづつ受け入れて「精一杯生きることができた」と思える関わりを大切にしています。ぜひ皆さん生活期STへ！

〒271-0043 松戸市旭町1-160 TEL: 047-344-3311 (代)

臨床こぼれ話

★★★ 私でよかったです・・・ ★★★

高知リハビリテーション学院 言語療法学科

石川裕治

大阪・神戸の病院で10年、そして高知で言語聴覚士養成の仕事をして17年目になります。臨床を始めて2年目の時、神戸の病院に勤務しましたが、そこには経験約20年という優秀なS.T.が勤務していました。そもそもそのS.T.の指導を受けたいと思い入職させてもらったのですが、大きな壁が待っていました。

「入院申し込み書」というものがあり、その中に「○○先生希望」と書かれているのです。言語科では、スタッフが4名で、新患は順番に担当していたため、「○○先生希望」と書かれた方を、そうでない私が担当することにもなるのです。患者さんやそのご家族は、「この人ではない」と思い、また、○○先生が横切るたびに、「あの先生のはずなのに…」と心の中で叫びながら見送る姿を何度も見てきました。

実力も、また見た目も上の、この上司の厚い壁を前に、患者さんやご家族から、「この先生はダメなので、担当を変えてほしい」と言われないため、戦いの日々が始まったのです。まず、服装を整え、表情や言葉遣い、また、時間厳守、訓練計画そして訓練教材の作成等々、「この先生でよかったです」と思ってもらえるよう臨床を続けました。もちろん、上司である○○先生の指導を受けながらであり、また、十分過ぎるほどの指導をしていただいたと感謝しています。

「私でよかったです？」と担当した患者さんやご家族に、いつも聞きたいと思いながらも、「○○先生に訓練してもらいたかった」と言わるのが怖く、聞けずに年月が流れました。5年が過ぎた頃だったでしょうか、思い切って、「私でよかったです？」と聞いたことがあります。検査、検査結果の解釈、訓練目標、訓練内容についても頑張れた患者さんで、毎回ご家族も参加され、家族指導も行え、『必ず、先生でよかったです』と言ってもらえると自分なりに確信した上のことでした。結果は、「先生がよかったです」と言っていただけました。「ああー よかった」と思ったのですが、何故よかったですのかが気になり、聞いてみると、「先生は、一生懸命やってくれた」と言わされました。その時、直ぐに思い浮かんだ情景が、ご家族から質問を受けて分からなかった時、参考書等を訓練室に持ち込み一緒に調べ、答えが解って一緒に喜んだことや、呼称のできる絵・できない絵を、3人で探し、みんなで疲れたと言い合った時のことなどでした。

このような生活は今も続いています。養成校の学生、県士会のS.T.仲間、また、協会の会員や理事の先生方、そして、妻や子どもたち等々、「私でよかったです？」を問い合わせての毎日です。また、合わせて、常に多くの方々から指導を受けながらの毎日もあります。

臨床家は特に、様々な人から評価を受けていることに意識し、評価をしてくれる指導者が必要です。また、このような環境が効率的で間違いが少なく楽（？）な気がします。

千葉県の言語聴覚士の先生方も、是非このような環境を県士会の中で作って下さい。



栄養評価の方法について



君津中央病院 薬剤科

NST 専門療法士 大木 健史

今回は患者さんの栄養状態の評価方法についてお話ししたいと思います。日々、嚥下訓練をされていて筋肉の動きが悪い場合など、この方の栄養状態は実際どうなのだろうと思われることもあるかと思います。通常、栄養状態の基準とする ALB 値は反応が遅いため、なかなか現時点の評価としては不適切です。かといって短期間の栄養評価ができるプレアルブミンなどの急性相タンパクの検査は、まだまだ行われていない施設が多いのではないでしょうか。そこで簡便な栄養評価法として、やはり基本となるのが体重です。

話は変わりますが皆さんは日頃、体重計に乗っていらっしゃいますか？毎日の体重測定は健康の基になります。何といっても体重は嘘をつきません。1 日の食事摂取量と 1 日の運動量が如実に反映されます。その数値の変化を自身が見るだけで、自ずと 1 日の乱れた生活が改善されることもあり、「体重計に乗るだけで健康管理ができる」といわれるくらいです。栄養障害を見る場合にも体重の変化率は一番わかりやすいと思います。

表1 体重変化の解釈

| | | | %体重変化 |
|--------|--------|---------|------------------------------------|
| %理想体重 | %通常体重 | | $\geq 1\sim 2\% / 1\text{週間}$ |
| 80～90% | 85～90% | 軽度栄養障害 | $\geq 5\% / 1\text{カ月}$ ⇒ 栄養障害の可能性 |
| 70～79% | 75～84% | 中等度栄養障害 | $\geq 7.5\% / 3\text{カ月}$ |
| ～69% | ～74% | 高度栄養障害 | $\geq 10\% / 6\text{カ月以上}$ |

1) 理想体重（%理想体重）

身長 (m) × 身長 (m) × 22 で算出します。

%理想体重 = 測定体重 / 理想体重 × 100 で求めます。

2) 通常体重（%通常体重）

患者の平常時の体重を通常体重といいます。通常体重を問診し、

%通常体重 = 測定体重 / 通常体重 × 100 で求めます。

3) 体重変化（%体重変化）

体重変化は（通常体重 - 現体重）で求め、

%体重変化（体重変化率） = (通常体重 - 現体重) / 通常体重 × 100 で求めます。

理想体重については、現体重とかけ離れている場合があります。ただ、理想体重が必ずしもその方にとて本当の“理想体重”ではない場合もありますので、そのような時は%理想体重は指標として適切ではないかもしれません。また、通常体重については、普段から体重を測っておられない方も多く、本人がご存じない場合もあります。そこで自己申告に頼ることにはなりますが、体重の変化率が最もその方の栄養障害度を評価できる指標ではないかと思います。栄養障害は、短期間の方もいますし、長

期間続いている方もいらっしゃいます。体重変化については、その方のまとめやすい期間で聞いてあげたら良いと思います。入院後できるだけ早い段階で現状の評価ができれば、その値を基準にその後の治療の中での栄養状態の変化を評価していくことができます。

寝たきり状態の患者さまにおいて、体重の測定が困難な場合には、下記のような測定のための近似式も報告されています。

表2 寝たきり患者の体重予測法(Grantの式)

$$\text{男性} = 0.98\text{AC} + 1.27\text{CC} + 0.40\text{SSF} + 0.87\text{KN} + 62.35$$

$$\text{女性} = 1.73\text{AC} + 0.98\text{CC} + 0.37\text{SSF} + 1.16\text{KN} + 81.69$$

AC:上腕囲(cm)、SSF:肩甲骨下部皮下脂肪厚(mm)

CC:ふくらはぎの周囲(cm)、KN:膝までの高さ(cm)

もう一つ、大切な栄養評価方法があります。それは上腕筋肉周囲長および、上腕筋肉周囲面積です。

以前、熱傷の患者さまで、傷も良くなり、食事も十分に摂取され、リハビリも積極的に取り組まれておられるのに、体重が減り続けているという方がおられました。ご本人はそのことをひどく悩まれていました。その時、入院時から測定していた上腕筋肉周囲長を比較してみると、皮膚移植等の手術の直後は一時期減少しましたが、その後はじわじわと改善し、術後1か月で入院時の値を超える程になっていました。ただ、この方の場合、下半身の熱傷であったため、上半身は積極的に動かされていて、特に車いすへの移乗や運転を頑張っておられたので、他の箇所よりも腕の筋肉がついていたのも事実だと思います。それでもこの結果は、ご本人もかなり喜んでおられ、またホッとされていました。

たまに上腕周囲長と上腕三頭筋部皮下脂肪厚を測り、その数値の変動のみを比較されているケースを見受けますが、栄養評価で最も重要なのは筋肉量の変動です。いかに筋肉量を落とさないように栄養を投与していくかが栄養管理計画の肝になります。

以下に上腕周囲の計測についてまとめます。

① 上腕周囲(arm circumference:AC) :

利き腕ではない側の上腕骨中点での上腕周囲径…cmで表す。

② 上腕三頭筋部皮下脂肪厚(triceps skinfold thickness:TSF) :

利き腕ではない側の上腕骨中点の皮下脂肪厚…mmで表す。

③ 上腕筋肉周囲(arm muscle circumference:AMC) :

利き腕ではない側の上腕骨中点での上腕筋周囲径の理論値であり、以下の式で算出する。

$$\text{AMC(cm)} = \text{AC} - 0.314 \times \text{TSF}$$

④ 上腕筋肉周囲面積(arm muscle area:AMA) :

利き腕ではない側の上腕骨中点での上腕筋断面積の理論値(ただし骨断面積は無視している)であり、以下の式で算出する。

$$\text{AMA(cm}^2\text{)} = (\text{AC} - 0.314 \times \text{TSF})^2 / 4$$

AMAはAMCよりも正確に筋肉量を反映するとされています。

参考文献、資料

コメデイカルのための静脈経腸栄養ハンドブック 日本静脈経腸栄養学会編集(南江堂)

三三三 きこえに関するひとくちコラム 三三三

・・・聴覚障害委員会・・・

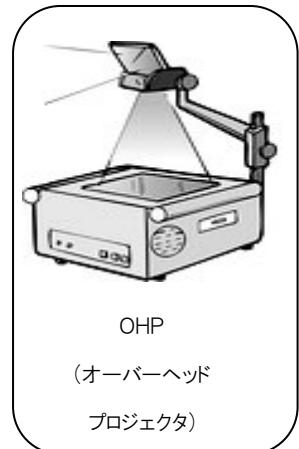
「情報保障」とは良く聞きますが、聴覚障害のある方への情報保障には実際どんなものがあるでしょうか。今回は主に成人を対象とした情報保障についてご紹介します。

情報保障って何をすればいいの？ ①成人編

手話 手話通訳士という公的資格があります。有資格者以外にも、各市町村や都道府県には手話奉仕員・手話通訳者が設置されています。テレビや講演会、役所や病院などに行く時個人で頼むなど、様々な場面で利用されています。

文字 パソコンや書字で行う要約筆記があります。聴覚障害者の隣でホワイトボードやノートなどに書く場合や、パソコンやOHP（図）等を用い大きく映し出す場合等があります。テレビや映画の字幕も一般的に用いられるようになってきました。連絡事項なども電話の代わりにメールやFAXを用います。筆談での対応をすると窓口に掲示している駅や病院などもあります。

音声 聴覚障害の程度によっては近距離なら良く聞き取れる場合もあります。話し手や音源が遠い場合、近くで内容を伝えることや静かな場所で対応する事も身近な情報保障になります。講演会等で磁気ループやFMシステムなどを利用する事も、聴覚活用の状態によっては有効です。



情報保障というと成人をイメージされる方も多いと思いますが、子供の集団参加の場面でも必要になります。次回は小児を対象とした情報保障についてご紹介します。

◇ 各委員会・作業部会から ◇

◎○◎リハビリテーション公開講座実行委員会◎○◎

「第7回リハビリテーション公開講座」のご案内

『みんなで考える脳卒中・在宅編 ～楽らく介護とリハビリのポイント～』

基調講演：「脳卒中の再発を予防しそこやかに暮らすために」

千葉県リハ医学懇話会

東京湾岸リハビリテーション病院 リハビリテーション科 松浦大輔 医師

講 演：「安定した暮らしを作るために ～身体のリハビリと生活リズム作り～」

千葉県理学療法士会 大曾根厚人 氏 (セコメディック病院)

「できることを増やし、楽しい在宅生活を送りましょう」

千葉県作業療法士会 古城哲也 氏 (介護老人保健施設フェルマータ船橋)

「嚥下のしくみと肺炎予防～安全に食べるポイント～」

千葉県言語聴覚士会 高野麻美 氏 (船橋市立リハビリテーション病院)

「身体と言葉の障害を乗り越えて」

千葉県失語症友の会協議会 会長 横田清 氏

展示・相談：各団体による展示・相談コーナー

日 時：平成26年2月8日（土） 13時～16時30分

会 場：市民文化創造館 きららホール（船橋FACeビル6階）

入場無料、どなたでも参加可能です（事前申し込み不要）

共 催：一般社団法人千葉県理学療法士会、一般社団法人千葉県作業療法士会、
一般社団法人千葉県言語聴覚士会、千葉県リハ医学懇話会

今年度は本会が幹事団体として準備をすすめております。脳卒中の当事者ならびに介護者に、脳卒中の再発予防や家での暮らしを支えるリハビリテーション、介助のポイントをご紹介します。また、失語症当事者の方にもご講演いただきます。会員の皆様はもちろん、患者様やご利用者様、そのご家族、職場のスタッフの方々にもお声かけいただき、お誘い合わせのうえ、ぜひご参加下さい。詳細は本会のホームページやチラシをご覧下さい。

（岩本 明子）

◎◎◎介護保険委員会◎◎◎

介護保険委員会からのお知らせ

今年度の介護保険委員会では、

- ①介護保険領域の言語聴覚士の把握と現状を知る、
- ②これらの情報を言語聴覚士および関係スタッフが連携・情報共有に活用できるようにすること、
を目的に、介護老人保健施設を対象に往復ハガキによるアンケート調査を実施しております。

介護老人保健施設と特別養護老人ホームに勤務する言語聴覚士の数は、それらの全体の約9%（2012）であり、医療保険領域に勤務する言語聴覚士が多いことが伺われます。

2025年度問題を控えますます介護保険へのニーズが高まる中、要支援1・2のサービスが市町村へ移管され、地域社会全体で支えていく方向となっています。このような現状を踏まえ、介護保険領域で働く言語聴覚士の強化を図りたいと委員会では考えております。

そこで、今回のアンケート結果をもとに「言語聴覚士がいる介護老人保健施設一覧」を本会ホームページに掲載を予定しております（12月中旬）。どうぞ、この情報を医療保険・介護保険領域に勤務する言語聴覚士、関連職種の皆様でご活用ください。

最後に、介護老人保健施設に勤務する会員の皆様、また知り合いの言語聴覚士の方がおられましたら、ぜひ返信ハガキご投函へのご協力のお声かけを何卒お願いいたします。

（木村 知希）

◎◎◎高次脳機能障害委員会◎◎◎

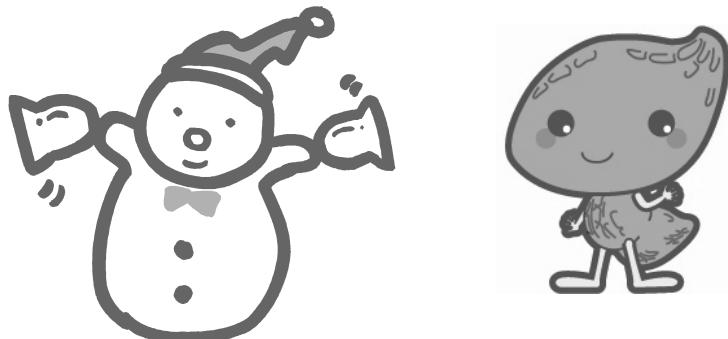
高次脳機能障害委員会 夏期特別講座 「なるほど！失語症の評価と治療」

平成25年8月25日、船橋市中央公民館にて失語症の研修会を開催しました。講師に小嶋知幸先生（市川高次脳機能障害相談室）をお迎えし、夏の終わりのまだ蒸し暑い中、県内外から160名と大変多くの方が参加下さいました。講義では、はじめに、訓練法立案のための失語学の考え方として、認知

神経心理学と言語情報処理モデルの基本的な考え方方が示されました。失語症を考えるということは、症候群や古典分類に当てはめるのではなく、これらのモデルをヒントにして、日々の臨床で自ら考え、知識を構築していくものと再確認することができました。次に、障害を理解するためのポイントとして、呼称や音読、理解など各モダリティに対応した言語情報処理モデルを一つひとつ説明して下さいました。典型例のビデオや音声が多数提示され、実際の言語症状とモデルを適合させる上で、非常に分かりやすい内容に構成されておりました。続いて、言語情報モデルにおいて音韻レベルと語彙レベルが両方障害されるような複合的障害への介入の手がかりについて説明下さいました。これは、臨床でもっとも悩む例ですが、重度失語症へのアプローチの考え方を教授下さいました。最後に、質疑応答が行われましたが、これは挙手による質問ではなく、事前に質問用紙を配り、集めておく方法でした。

終了後のアンケートでは、講義に対する感想や今後求める研修会の内容について、次のような声が寄せられました。／・認知神経心理学は難しいイメージがあったが、研修を受けたあと、少し楽に考えられるようになった。(10年目)／・モデルをもとにした障害の検索の仕方、訓練として実際に何をするかという事が整理されてとても分かりやすく、現在抱えている患者様の訓練内容を見直すきっかけになった。(3年目)／・非常にわかりやすかった。症例の症状を思い浮かべながら、うなずける部分が多くあった。また、文献も読み、臨床に生かしていきたい。(15年目)／・アプローチ方法について、映像・音声などを使用し説明していただいて分かりやすかった。非音韻的なアプローチについて、今まで訓練してきた患者様に対して、もっと使用できていれば良かったなと患者様の顔を思い出した。(4年目)／・初めて千葉県言語聴覚士会の勉強会に参加させて頂いた。内容が濃く、とても勉強になった。(2年目)／・症例検討に参加する機会は多くあるが、ときどきは基礎的な知識や新しい知識を取り入れる今回のようないい勉強会はとても良いと思う。会場も交通の良いところで来やすかった。(10年目)／・質問用紙での質問形式が良かった。(5年目)／・次回はもっと長い講義をして頂きたい。(多数)／・失語症は幅広い分野なので、定期的な研修開催をしてほしい。(多数)／・第2回を開催してほしい。(多数)、など好評をいただきました。今回の企画が、参加下さいました方の臨床の一端としてお役に立てれば幸いです。高次脳機能障害委員会では今後も現場ニーズに合わせた研修会の企画を検討していきます。

(治田 寛之)



◇ 事務局から ◇

年会費納入のお願い

財務部より


* 平成26年度分年会費（前納制）のお支払いをお願いします。

お支払期限は 平成26年3月31日 となっております。

お早めのお支払いをよろしくお願いします。

正会員 3500円 準会員 3000円

賛助会員は、1口5000円（個人1口以上、団体2口以上でお願いします）

未納分について

* 平成25年度分年会費のお支払いがお済みでない場合は、2年分を合計した金額でお支払ください。

本会の規則により、2年以上会費未納の場合は退会とみなされますのでご注意ください。

なお、退会後も未納分は徴収させていただきますのでご了承ください。

（例：正会員の場合：3500円×2=7000円）

1. 入会のお誘い

本会に入会されていない方は、ぜひご入会くださるようお願い申し上げます。入会ご希望の方は、ホームページにても入会方法をご案内申し上げておりますのでご覧ください。また、お近くに未入会の言語聴覚士の方がいらしたら、入会をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

2. 住所・勤務先変更届けについてのお願い

住所や勤務先など、入会時にされた登録内容に変更があるときは、お手数ですがなるべく速やかに、事務局まで郵便またはFAXにてご報告くださいますようお願いいたします。変更届は会のホームページよりダウンロードすることもできます。会よりの郵便物がお手元に届くのが遅れるなど不都合がございますので、ご協力をお願いいたします。

3. 新リーフレットについて

法人化、事務所移転を機に、本会の新しいリーフレットを作成しました。本会のマスコットキャラクターCAST-5が、会やSTのことを紹介しています。同封しましたので、ご覧ください。このリーフレットを所属施設に置きたい、研修会などで配布したい等のご希望がありましたら、必要部数と連絡先を明記し、事務局までお申し込みください。追ってご連絡いたします。また本会ホームページにも掲載しており、ダウンロードもできます。

4. 新入会員のお知らせ (敬称略) 会員数: 正会員 365名・準会員 22名・賛助会員: 7団体

(平成25年10月20日 理事会承認分まで)

…正会員…

柴田 佐代子(千葉西総合病院)

辻本 哲郎(らいおんハートクリニック 行徳駅前)

松田 衣里加(成田病院)

小田 薫(メディカルプラザ平和台病院)

岩原 真秀(千葉西総合病院)

牛来 香里(亀田メディカルセンター)

鶴崎 奈望(らいおんハートクリニック)

仙場 麻衣(新八千代病院)

半村 まかな(初石病院)

伊藤 あすか(ケアセンター習志野)

積田 理乃(順天堂大学浦安病院)

小林 佳弘(八千代リハビリテーション病院)

野宮 しおり(富里市簡易マザーズホーム)

寺田 真紀(初富保健病院)

佐野 基(白金整形外科病院)

前中 碧(千葉徳洲会病院)

中村 友紀(成田市役所)

末藤 真弓(船橋ケアセンター)

境 美奈子(さかいリハ訪問看護ステーション西船橋)

土橋 香織(西千葉整形外科)

(届出順)

5. ツイッタースタートしました

ホームページの更新情報を、いち早くお届けします。フォローよろしくお願いします。

◇ 理事会・委員会等報告 ◇

◆ 平成25年度 理事会

《第4回》日時: 2012年7月7日(日) 13時00分~17時00分 場所: 黒砂公民館 会議室

出席者: 吉田、岩本、木村、古川、宮下、渡邊(以上理事6名)、山本(監事)、鈴木瑞恵(書記)

・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員、退会者について ・リーフレットについて ・言語聴覚の日について
・電子公告(貸借対照表)について ・役員改選のお知らせについて ・選挙管理委員会内規について ・生涯学習
プログラム案内について ・No42ニュースについて ・部局員等名簿について ・入会申込書などについて ・高次
脳機能障害委員会研修会案内について ・NPO法人千葉盲ろう者友の会講師依頼について ・千葉県ことばを育てる親
の会全国大会後援依頼について ・介護保険委員会アンケート調査項目について ・第42回医療功労賞、文化の日千葉
県功労者表彰の推薦について ・千葉市地域リハビリテーション連絡協議会について ・回覧郵便物回覧 ・新事務所移
転進捲状況について ・日本言語聴覚士協会都道府県士会協議会について ・船橋在宅医療ひまわりネットワークについて
・メーリングリスト上の案件承認について

《第5回》日時: 2013年8月4日(日) 13時00分~16時05分 場所: 黒砂公民館 会議室

出席者: 吉田、岩本、木村、酒井、鈴木、古川、渡邊(以上理事7名)、宇野(監事)、荒木(書記)

・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員、退会者について ・千葉県東葛南部地区地域リハ広域センター事業
研修会との共同開催について ・介護保険委員会アンケート項目について ・生活期リハビリテーション合同研修会につ
いて ・挨拶回り、涉外部の方向性について ・後援依頼について ・高次脳機能障害委員会研修会の申込状況について ・

認知症専門職研修の開講式および閉講式について ・千葉県ことばを育てる親の会懇親会について ・一般社団法人千葉県言語聴覚士会リーフレットについて

《第6回》日時：2013年10月20日（日）13時00分～16時30分 場所：黒砂公民館 和室

出席者：吉田、岩本、酒井、木村、宮下、古川、鈴木、渡邊（以上理事8名）、山本（監事）、荒木（書記）

・各部、各局の議事録の承認について ・新入会員、退会者について ・言語聴覚の日報告について ・一般公開講座『ご存知ですか？「失語症」』の後援依頼について ・千葉県作業療法士会 作業療法士学会後援依頼について ・No43ニュースの構成、スケジュールについて ・学術局第3回研修会案内状について ・認知症専門職研修実行委員会の研修会について ・財務業務の見直し（案）について ・生涯学習について ・日本言語聴覚士協会の代議員制の導入について ・高次脳機能障害委員会研修会アンケート結果 ・事務所移転登記完了 ・第10回ヘルシー・ソサエティー賞について ・船橋在宅医療ひまわりネットワーク第2回役員会について

◆ 平成25年度 学術局

《第2回》日時：2013年7月28日（日）10時00分～12時00分 場所：プラザ菜の花

出席者：荒木、木村知希、木村佐知子、酒井、柄澤、神作、佐藤、竹中

仕事内容と役割分担、第2回研修会スケジュール、第3回研修会の検討

《第3回》日時：2013年9月8日（日）16時30分～17時30分 場所：東京女子医大八千代医療センター

出席者：荒木、木村知希、木村佐知子、酒井、柄澤、神作、佐藤、竹中

第2回研修会反省、第3回研修会の検討、平成26年度第1回研修会の検討、次年度計画案の検討

◆ 平成25年度 社会局涉外部

《第1回》日時：2013年10月10日（木）19時00分～21時30分 場所：トレビアン船橋駅前店

出席者：鈴木、常田、渡邊

今年度の活動報告及び活動計画の確認、今後の予定

◆ 平成25年度 小児言語障害委員会

《第1回》日時：2013年6月15日（日）10時00分～11時10分 場所：ジョナサン千葉駅前店

出席者：藤田、金子、戸田山、廣瀬、渡邊、木下

今年度の活動計画の確認、研修会開催事項の検討・承認（会場、実施内容、発表者、ワーク資料などの検討）、今後の予定

《第2回》日時：2013年7月28日（日）10時00分～12時00分 場所：千葉リハビリテーションセンター

出席者：藤田、金子、戸田山、廣瀬、渡邊

理事会報告、グループワークの検討・承認（発表症例内容、グループ編成、タイムスケジュール等について）、今後の予定

《第3回》日時：2013年9月8日（日）16時00分～17時10分 場所：東京女子医大八千代医療センター

出席者：藤田、金子、廣瀬、渡邊 欠席者：戸田山

グループワークの反省、アンケートまとめ、次年度研修会についての検討、今後の予定

◆ 平成25年度 摂食嚥下障害委員会

《第1回》日時：2013年7月14日（日）10時00分～12時00分 場所：東京女子医大八千代医療センター

出席者：鈴木、高橋、林、田中、相楽、酒井

平成25年度研修会について、次年度計画案の検討

《第2回》日時：2013年10月6日（日）10時00分～11時00分 場所：順天堂大学医学部附属浦安病院

出席者：鈴木、高橋、林、田中、長良、相楽、酒井

平成25年度研修会について、次年度計画案の検討

◆ 平成25年度 介護保険委員会

《第2回》日時：2013年9月8日（日）12時00分～12時30分 場所：東京女子医大八千代医療センター外来棟4階大会議室前

出席者：木村佐知子（担当理事）、木村知希（委員長）、小野、坪木、平澤、松本

- ・第2回研修会スケジュールについて
- ・アンケート調査について等

◆ 平成25年度 聴覚障害委員会

《第1回》日時：2013年6月16日（日）10時00分～12時00分 場所：千プラザ菜の花 サークル室A

出席者：常田 高橋 新川 黒谷

- ・勉強会について
- ・今年度の委員会日程について

《第2回》日時：2013年7月19日（土）18時30分～20時30分 場所：千葉市療育センター やまびこルーム

出席者：常田、高橋 黒谷 新川

- ・勉強会について（内容、講師）

《第3回》日時：2013年9月1日（日）10時00分～12時00分 場所：千葉市療育センター やまびこルーム

出席者：常田、高橋 新川

- ・勉強会について（内容、開催案内）



◆ 平成25年度 高次脳機能障害委員会

《第3回》日時：2013年6月11日（火）19時30分～22時00分 場所：新八千代病院

出席者：治田、平山、鈴木

- ・失語症研修会について
- ・チラシ内容
- ・講義時間の構成
- ・申込方法
- ・印刷業者選定
- ・参加資格

《第4回》日時：2013年6月16日（日）11時00分～12時30分 場所：市川高次脳機能障害相談室

出席者：治田、平井、鈴木

- ・失語症研修会について
- ・研修会のタイトル
- ・講義内容
- ・案内状、懇親会

《第5回》日時：2013年7月16日（火）19時30分～22時00分 場所：新八千代病院

出席者：治田、平井、平山、石橋、鈴木

- ・失語症研修会について
- ・案内状
- ・アンケート
- ・質疑応答
- ・講師依頼文
- ・懇親会

《第6回》日時：2013年8月3日（土）16時00分～19時00分 場所：東邦大学医療センター佐倉病院

出席者：治田、平井、平山、竜崎、鈴木

- ・失語症研修会について
- ・申込状況
- ・質疑応答の方法
- ・当日のボランティア

《第7回》日時：2013年8月20日（火）19時30分～21時40分 場所：新八千代病院

出席者：治田、平井、平山、鈴木

- ・失語症研修会について
- ・申込状況
- ・委員とボランティア役割分担
- ・休憩時間
- ・当日打ち合わせ

《第8回》日時：2013年10月18日（金）19時30分～22時00分 場所：新八千代病院

出席者：治田、平山、石橋、鈴木

- ・失語症研修会について
- ・アンケートの集計結果
- ・県士会ニュースの原稿
- ・認知教材集

◆ 平成25年度 広報部・ホームページ委員会

《第1回》日時：2013年9月8日（日）10時00分～12時00分 場所：東京女子医科大学八千代医療センター
出席者：岩本、加藤、相楽、柳澤

・HP複数管理体制 ・デザイン変更 ・問い合わせフォーム ・内容整理 ・ツイッター発信 ・新リーフレット他

◆ 平成25年度 第7回リハビリテーション公開講座実行委員会

《第1回》日時：2013年6月6日（木）19時00分～21時15分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：吉田、岩本、神作、鈴木 千葉県理学療法士会3名 千葉県作業療法士会3名

・実行委員会設置要綱、会計マニュアル確認 ・開催日時場所 ・役割分担 ・スケジュール ・テーマ

《第2回》日時：2013年7月10日（水）19時00分～21時10分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：岩本、神作、鈴木 千葉県理学療法士会4名 千葉県作業療法士会3名

・実施要綱作成（趣旨、後援先、講演時間配分、講演内容、広報活動、予算等） ・来年度の会場費

《第3回》日時：2013年9月20日（水）19時00分～21時10分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：岩本、神作 千葉県理学療法士会4名 千葉県作業療法士会3名

・講演内容 ・チラシ配布方法 ・情報誌等広告 ・当事者団体展示 ・来年度の内容 ・会計マニュアル

◆ 平成25年度組織検討委員会

日時：2013年8月25日（日）午前9時30分～11時00分 場所：常盤平（ドトール）

出席者：平山、栗林、松井、吉田

・涉外部と地域連携部の業務 ・情報連携方法

◆ 平成25年度 生涯学習プログラム基礎講座・専門講座作業部会

《第2回》日時：2013年10月20日（日）10時00分～11時30分 会場：千葉市黒砂公民館 工芸室

出席者：斎藤、西本、宇治、太良木、渡辺、古川

・申し込み状況、会計報告 ・申し込み期間の延長について ・当日までの作業内容・役割分担の確認 ・役割分担について ・次年度の講座開催について

◆ 平成25年度千葉県言語聴覚の日 作業部会会議

《第1回》日時：2013年2月24日（日）15時00分～17時00分 場所：鎌ヶ谷市総合福祉保健センター

出席者：吉田、木村、落合、千葉言友会4名、研究者2名

・内容の検討 ・講師料 ・記念品

《第2回》日時：2013年4月28日（日）15時00分～17時00分 場所：鎌ヶ谷市総合福祉保健センター

出席者：吉田、木村、落合、千葉言友会3名、研究者1名

・内容の検討 ・ポスターのデザイン依頼 ・会場 ・後援依頼先

《第3回》日時：2013年6月23日（日）15時00分～17時00分 場所：鎌ヶ谷市総合福祉保健センター

出席者：吉田、木村、落合、寄本、言友会3名

・内容の検討 ・広報 ・クイズ ・HPでの広報

《第4回》日時：2013年7月21日（日）15時00分～17時00分 場所：鎌ヶ谷市総合福祉保健センター

出席者：吉田、木村、落合、寄本、言友会3名、研究者1名

・講師の移動・宿泊、後援、要約筆記、協会への補助金申請

《第5回》日時：2013年8月25日（日）15時00分～17時00分 場所：鎌ヶ谷市総合福祉保健センター

出席者：吉田、木村、落合、寄本、言友会3名、研究者1名

・鼎談者・チラシ・クイズ・HPへの掲載内容

《第6回》日時：2013年9月28日（土）9時00分～10時00分 場所：そごう千葉店

出席者：吉田、木村、落合、寄本、言友会3名、研究者2名

・構成・内容の確認・タイムスケジュールの確認

◆ 平成25年度 三土会役員連絡会

日時：2013年9月9日（月）19時00分～20時30分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：千葉県理学療法士会 田中会長 竹内副会長 藤川総務部長 上田涉外部長、千葉県作業療法士会 池澤会長 坂田副会長 伊藤事務局長、千葉県言語聴覚士会 吉田会長 岩本副会長

・各士会24年度報告・25年度予定、生活期リハビリテーション合同研修会・リハビリテーション公開講座、災害リハビリテーションの取り組みについて

◆ 平成25年度 地域連携部 訪問リハビリテーション実務者研修会実行委員会

《第1回》日時：2013年5月15日（水）出席者：小野、勝又

《第2回》日時：2013年6月14日（金）出席者：小野、勝又

《第3回》日時：2013年7月26日（金）出席者：小野、勝又、吉田

《第4回》日時：2013年9月17日（金）出席者：小野、勝又

◆ 平成25年度 地域連携部 認知症専門職研修モデル事業委員会

《第1回》日時：2013年4月30日（火）出席者：鈴木、治田

《第2回》日時：2013年5月22日（水）出席者：鈴木

《第3回》日時：2013年6月19日（水）出席者：治田、平山

《第4回》日時：2013年7月3日（水）出席者：鈴木、治田

《第5回》日時：2013年7月22日（月）出席者：鈴木、平山

《第6回》日時：2013年8月7日（水）出席者：鈴木、治田

《第7回》日時：2013年8月28日（水）出席者：鈴木、治田、平山

《第8回》日時：2013年9月11日（水）出席者：鈴木

《第9回》日時：2013年10月1日（火）出席者：鈴木、治田、平山



◆ 平成25年度 地域連携部 船橋在宅医療ひまわりネットワーク

《第1回》日時：2013年6月28日（木）出席者：山本

◆ 平成25年度 地域連携部 千葉市地域リハビリテーション広域支援センター会議

《第1回》日時：2013年7月4日（木）出席者：勝又

（紙面の都合上、報告事項と協議事項はまとめて記載しています。）

言語訓練用絵カード **ActCard** ActVoice対応 (アクトカード)

New 第4巻 名詞絵カード

18,900円

1・2巻に続き、やや難しい語句の名詞絵カード300枚組で構成されています。



● 第1巻・2巻 名詞絵カード 各 18,900円

● 第3巻 動詞絵カード 18,900円

● 文字版第1巻 (アクトカード第1巻に対応) 14,700円

New あるがままに自閉症です 東田直樹の見つめる世界 1,050円

著: 東田 直樹 四六版

今年7月、君津市在住の著者「自閉症の僕が跳びはねる理由」が英語圏で翻訳され、2カ月で10万部を越える大ベストセラー。成人した著者はブログを開設し、それを書くことで自分の考えが整理されてきましたと述べています。ブログに掲載された数多くのメッセージを厳選して加筆、書籍化。ご家族や支援する方…何よりもこれから大人になろうとしている当事者への心のこもったメッセージがここにあります。

出版記念講演会 2014年2月2日開催! 詳細はホームページにて

認知症コミュニケーションスクリーニング検査 14,700円

Communication Screening Test for Dementia (CSTD)

監修: 飯干 紀代子

商品内容: マニュアル・検査フォーム・検査用物品・文字&短文カード・滑り止めシート・CD-ROM・ケース

- ①聴覚・認知・言語・構音の4領域を包括的に評価する
- ②検査結果からコミュニケーション障害を類型化して、支援方法の方向性を示す
- ③付属のCD-ROMに収録されているExcelファイルに結果を入力して、A4判1枚の報告書を作成できる
- ④4領域の得点をレーダーチャートで示すことにより、他職種や家族にわかりやすく説明できる

もの忘れが気になる方へ 新記憶サポート帳 1,260円

著: 安田 清 A4変形版

記憶サポート帳が新しくなりました。記入ページが2か月から3か月分記入可能となりました。毎日書くことで、困っていた予定のやり残しや、約束を忘れることが減ります。

キャリオーバーのための 構音(発音)絵カード 24,150円

企画・監修: 加藤 正子 竹下 圭子 A6判 523枚組

商品内容: 語彙リスト(冊子・CD-ROM)・手引き書・ケース

- ①学童が獲得している基本単語・日常単語 523枚
- ②全ての日本語音が含まれている
- ③難易度を考えた1~6音節
- ④[s] [k]など訓練頻度が多い語は多めに収録
- ⑤ドリル学習に便利なキャリアフレーズカードも収録
- ⑥指導音が語頭だけでなく語中・語末にある単語も簡単に探せる



エスコアール <http://escor.co.jp>

● 価格は全て消費税(8%)込みです。 ● 上記の商品はホームページから全品送料無料でお求めいただけます。 TEL 0438-30-3090 FAX 0438-30-3091

マウスピュア®シリーズ 口の機能を取り戻すために

唾液分泌
促進

清掃

保湿

口腔
マッサージ

マウスピュア®

複合成分(グリチルリチン酸二カリウム)配合
保湿剤:ヒアルロン酸Na(透明グリセリン)配合
防腐剤:クエン酸ナトリウム

40 g 希望小売価格 1,470 円



マウスピュア®シリーズ口腔ケア製品ラインナップ



吸引+歯みがき / 吸引+口腔清掃
「吸引歯ブラシ」「吸引スponジ」



口腔清掃
「口腔ケアスponジ」



アイスマッサージ
「口腔ケア綿棒」



舌リハビリ
「口腔ケアガーゼ」



舌清掃
「フレッシュメイト KJ」

* 製品改良のため、仕様の一部を予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

川本産業株式会社

本社 / 大阪市中央区糸島町 2丁目4番1号
 ●お客様相談窓口 06-6943-8956(10:00~17:00 月~金ただし祝祭日を除く)
 ●商品に関するお問い合わせ・試供品のご要望は
 マーケティング本部 06-6943-8941

<http://www.kawamoto-sanyo.co.jp>

流動食用
半固体調整食品
ペグメリン[®]
流動食に混ぜるだけ!
すばやく半固体形状に調整できます。



2.5g × 50包



500g (計量スプーンつき)

特長 1 流動食に混ぜるだけ!

特長 2 添加3~5分後、再びかき混ぜることで
すばやく粘度が発現します

特長 3 必要に応じて幅広く粘度調整ができます

特長 4 ベタつきが少ないので注入が容易です

●賞味期限：製造後 2年間

販売者
株式会社 三和化学研究所
本社/名古屋市東区東外堀町35番地 〒461-8631
TEL (052) 951-8130 FAX (052) 950-1861
SKK ●ホームページ <http://www.skk-net.com/>

リオネット補聴器

補聴器のご相談は安心できる

認定補聴器専門店で!!

認定補聴器専門店は「認定補聴器技能者」が在籍し、補聴器をお客様の耳に合わせるための設備機器が整い「補聴器の適正供給」の運用がされ「公益財団法人テクノエイド協会」が認定したお店です。つまり経験豊かで専門的な知識と技能を持ったスタッフが、様々な機器を使い、一人ひとりのお客様の聞こえの状態に合った最適な補聴器をご提供します。



認定補聴器専門店

リオネットセンター 千葉

千葉店：千葉市中央区新町 18-12
TEL: 043-246-3321 FAX: 043-246-3319



成田店：成田市公津の杜 1-13-17
TEL: 0476-20-6633 FAX: 0476-20-6634



発行所:一般社団法人 千葉県言語聴覚士会

発行人:吉田浩滋

編集人:編集部 古川大輔

事務局:〒263-0042 千葉市稻毛区黒砂2-6-15 メゾン K102

FAX 043-243-2524

E-mail chibakenshikai@zp.moo.jp

ホームページ:<http://chibakenshikai.moo.jp/> 会員専用パスワード:affordance

印刷:社会就労センター はばたき職業センター